

ほっぷ・ステップ・JUMP!

2005.7.3

vol.67

発行 北海道の子どもと保父の会

<http://homepage3.nifty.com/~hokkaido-hofunokai>

巻頭言

やっと天気も落ち着き、夏らしい天候になってきました。でも少しだけ気になるのは、風の強さ。前から札幌の初夏って、こんなに風が強かったっけ・・・？

天気予報などでも、最高気温の予想を見たり聞いたりする人たちは、着るものを考えたり、今日一日の予定を考えたりするわけです。しかし番組によっては、最高気温だけで「今日は最高の一日になるでしょう」と簡単なことを言います。でもちょっと待ってくれ。最高気温といわれても、最低気温が何度で、風邪がどの位強いから体感気温は何度位で、一日を通しての平均温度は何度なの？ これだけ風が強い日が続くと、そんな、気持ちの行き違いすら、大問題のように思えてきます。

さて、行き違いといえば、先日、うちの息子が「水いぼではないか・・・。」と保育所で指摘を受け、数日後に掛かりつけの小児科医へ行ってきました。医者判断としては、「水いぼだねこの辺は・・・。」と言うので、処置するかと思いきや、何もしないとの診断。小児科の見解は「感染することによって、抵抗力が出来て、段々かからなくなる」ということで、うつたって平気だよ・・・という話。こちらとしては、水遊びや、プール遊びで、水に接する機会が多い保育所生活では、いち早く何とかしてと思ったのですが、そこがかなわず、保育所へ行くと当然ながら、「処置してください」という判断。わたしも職業柄、息子を預けている保育所の見解を理解できますし、医者診断も頷けます。ただ、ここでの行き違いというか、おたがいに対しての認識の薄さには、考えさせられること多々ありました。医療関係と保育所など施設は、もっと情報交換などをもっとして、つながりを持つべきなんでしょうね。そこで、共通の認識での見解を保護者に伝えていけば、もっと色んな事がシンプルになっていくのになあ・・・。「たかが、水いぼされど水いぼ」。ほんとは行き違いとか、施設と相談機関や医療関係のつながりがもてていないというケースは、よくあることだと思います。

障がい児や、やや心配な子が保育園にいる場合の保育所、児相、その他の相談機関、就学前なら小学校・・・。それぞれの場所で認識がバラバラの現状をどう変えていくか・・・。今後、複合施設を作るのであれば、それぞれの立場の人たちが、お互いを認め合いながら、まず人間関係を築いていかななくては、いけませんね。ハコだけ作ってもダメなんです。でも、国の中枢で、縦割り行政なんていわれている現状では、なかなか、難しいところもありますねえ。もっと、子どもにお金を掛けないと(いい意味ですよ。習い事とかじゃなくて・・・。)、目先の経済活動ばかりに目が行ってもね。いいじゃん常任理事国じゃなくたって。

とっているうちに、北海道の夏は、終わってしまいそうなので、この辺で・・・。今年も夏を楽しむゾウ。

次回の例会たくさん参加してね。

わたる

オススメ絵本

『とぶひ』 学研おはなし絵本 井上 洋介

とにかく、何でも飛んでいきます。理由は、そんな気分だから。
素敵です。井上さん。



『歌う悪霊—北アフリカサエル地方の昔話から』

さく・ナセル ミケル え・エルム オルン 訳・シマダ カンゾウ

なかなか、救いようのないおはなしですが、
個人的には好きです。絵がなんといっても、いいですね。



例会報告

2005年度最初の例会は5月13日（金）に幌北中央保育園で行われました。まこと保育所の新人有野くん、白石保育園の小野くんが初めて参加してくれました。

今回のテーマは「近況報告会」ということで、フリーな話し。

初参加の面々には保育士になるにあたっての動機や実際に働いてみての感想を聞き、浅利くんと桑原が近々親向けに子育ての講義をすることになったこともあり、子育てにおける父親の役割や思いを話し合いました。子育て真っ最中の☆WATAさんからいろんな話がありました。

ひとしきり話しが終わるとそのあとは…、居酒屋に行っちゃいました～！

その時の写真はこちらです。



新連載PART1

～職場の「インフォメーション」で毎月連載が始めた西村くんからのコラムです。

子に倅あれ ～父親として思うこと～ 第1話（4月）

平成17年4月6日。校庭には我が子の入学を祝うかのように、美しく桜が咲き誇っていた。スーツにネクタイを締めた息子は不安と期待を秘めた表情で入場し、私たち夫婦もその大きく成長した姿に自然と笑みがこぼれた。

息子の名前は「倅せに・汰くましく」で倅汰（こうた）。同じ日小学4年生になった姉（ねえねえ）の名は「友にめぐまれ・希ぼうをもって」で友希（ゆき）。親の願いを込めて名付けた。その子の人生は本人が歩いていくしかないと思うが、いつか巣立つときに私たちの願いが届くようにと想う。名前はその人の「命」として宿るものだから。

育児は親の姿を映し出すもの。夫婦二人三脚とはよく言ったもので、私も父親になり早9年。妻に鍛えられながら「自分中心」の生活から「子育て中心」の生活に変わっていった。乳幼児期は母親はもちろんのこと、父親が「親」として自覚する大切な時期。

学校だよりに「人と比べてできるから満足するとか、できないから自信をなくすのではなく今の自分と比べて、できることを増やしていくことが大切」との言葉があった。教育現場は「人ありき」。その子にとっての良い先生（大人）とのめぐり逢いを切に望む。



～つづく～

子に倅あれ ～父親として思うこと～ 第2話 (5月)

ねえねえと共に毎日元気良く、ケンカもありながらも登校している新一年生の倅汰。姉がいることは本人にとっても心強い。お互い、本当に楽しそうである。何時でも一緒、ほほえましい光景で嬉しく思う。しかし「花粉症」までは一緒ではなかった・・・



倅汰は昨年から発病。今年は特にひどく、目は真っ赤、鼻もじゅくじゅくでおかげで自らポケットにティッシュを欠かさない良い子。その父親も「花粉症」である。互いに共通しているのは、スギが1でイネ科が9の比率。要はそこらへんに生えている雑草に弱い親子である。日本人の20%ほどが花粉症のようで、その中の2人。スギは戦前の森林伐採を取り戻すべく、戦後大量に植林したおかげ?で、現在、花粉を多くつける樹齢30年以上の木が多くなっているとのこと。人間の自然に対する冒涇が招いたものだろう。いかにヒトが「人間中心」として生きているのかが良く分かる。「育児はこども中心」「地球は自然中心」無理にその摂理を崩せば、人も自然も壊れていくように思う。

～つづく～

倅汰が書いた4人家族です。
ビールを持つとパパ。お花を
持つとママ。うーんすばらしい!!

新連載PART2 ～休日をエンジョイしている美深の本間くんからの旅日記です。

●はじめに

去る6月7日、私は車を出し、国道40号線（以下R40）を美深から北上して今回の旅をスタートさせた。

今回の話のきっかけは、先日届いた桑原氏からの一通のメールである。曰く「先日の中川天塩稚内日帰りの旅をリメイクして原稿にさせていただけないでしょうか？少しバリエーションを増やしたいので、ご協力をよろしく！」と。

道北の中川町の廃校に関する話を以前からやり取りしていた際に送付して頂いた地図を元に、中川町内の閉校跡探索の旅に出て撮った写真を桑原氏に送付した事が元だった。

右の地図が桑原氏に貰ったものである。桑原氏の話によると昭和48年に地図上の4校が統廃合したらしい。ちなみに中川町には他に道道美深中川線（音威子府を通らずに両町を行き来するルート）沿いに板谷・共和という2校の小中学校があったが、件の道道が無期通行止め状態のため今回は探索を見送った。

そういう事で、今回は中川から天塩へ行き、勢いで稚内まで行ってしまった6/7の旅記録を綴ろうと思う。



●まず、中川町へ

音威子府からR40の神路溪谷を抜けると、まずは中川町の佐久集落に着く。市街からは10kmほど離れているが、天塩川をはさむように人家がある程度集まる。音威子府から向こう、天塩川沿いの狭い溪谷地帯を通ってきたが、そこを抜けた後の開けた景色が私はすごく好きだ。一気に世界が変わったとすら感じる。ここは最近まで中学校と保育所があったが既に閉校してしまった。中学はH11年3月の閉校時、へき地3級に指定されていた。

右の写真は以前のものだが、町立佐久保育所。園庭には遊具が残り保育室には棚にいっぱい紙芝居が並んでいた。往時にはここで子どもたちが先生に昼寝前の読み聞かせをしてもらったりしていたのだろう。特に転用されている様子は無く、『エコミュージアムセンター』という宿泊体験施設として第二の人生を歩んだ中学とは対照的にこちらは放置されているといった感が拭えず、何とも寂しい。



●中川市街を過ぎて

R40沿いの道の駅ながわで早々にスタンプを押した私は大富・歌内・国府の3校を探す為にひたすら北上した。途中、大富という地名標を見るが周囲に校舎らしきものが全く見当たらない。恐らくもう残っていないのだろう。『→歌内 1.5km』という標識の場所から右折。見ると歌内大橋は新橋を建設中だった。しかし走ってみると旧橋はやたら怖い。路肩のフェンスが鉄パイプ式の古いものだったのだが、それでも住民にとっては重要だった事だろう。S30年代までは渡し舟を使っていたらしいが、当時増水のために舟もろとも登校中の子どもたちが川にのまれてしまうという悲惨な事故も起きたという。

橋を渡るとすぐに歌内地区に着く。JRの駅があり、かつては郵便局もある集落だったが現在は駅前の商店1軒と民家数件を残すのみとなった。その駅から少し離れたところに歌内小学校が見える。閉校後年数が経過している割に保存状態が極めて良い。誰かが使っている感じがするが、後の調べで家具工房として使われているという事がわかった。

そして国道へ戻り国府へ。明らかに学校らしい建物があつたが、どうやらこれが国府小のようだ。現在は農業なんか休憩施設という公共施設として転用されているらしい。歌内・国府両校ともS48年12月閉校。



(左)歌内小 (右)国府小 光量補正を間違えたため妙に暗い。失敗。国府小は右側がすぐ国道。両校とも左側がグラウンド。

●勢いでそのまま北へ

ここから先は「平原の中を北へ向かって一本道」という中川以北のR40を象徴するような風景が続く。なお進むと天塩町の区域に入るが、実際に人家のある区間は天塩川対岸にJR雄信内駅を擁する東雄信内のみである(ちなみにJRの駅は幌延町の区域に入る)。そのもう少し先に円山という地区があり、そこにも小学校はあつた。国道のすぐそばだったが周囲に人家は殆ど無く、H11年3月に閉校。最後は児童数6名で、離島以外では最高クラスのへき地4級だった。



円山小の全景。右の門柱の影に閉校記念碑がある。



看板の右下は 『閉校式 平成11年3月17日』 と。

●そして、7度目の稚内へ

その後天塩市街に出て天塩川河口付近を通り、あとは稚内までただ北上するのみ。だが今回稚内への進入ルート選択に道道稚内天塩線(要するに日本海沿いルート)を取ったのには一つの理由があつた。実は、今回で稚内は7度目になるが、私は**今まで一度も利尻島を見た事が無い**のだ。日頃の行いに問題は無いはずだが、とにかく日本海側に出る時は得てして天候に恵まれなかったのだ。そして今回はというと、晴れ。さすがに大丈夫だろうと鷹をくっけていたら、豊富町稚内付近から何やらフロントガラスに水滴が。…奴ら来やがった。稚内に近づけば近づくほど周

圏は雲で暗くなる。そんな状態で利尻島が見えようはずもなく、黒星がまた一つ増えた。いつか必ずリヴェンジを果たして利尻富士をカメラに収めようと思う。それに、稚内天塩線の目的はこれだけじゃない（壊）。

それは、以前発見できなかった稚内市立夕来小中学校の事である。豊富から稚内に入ると、周囲に原野や湿地がそのまま残されて荒涼とした風景が広がり、そのオネトマナイという地区に件の学校もあった。S60年3月閉校との事だが、S58年当時の資料では小中合わせて児童4名（！）、教職員4名、へき地4級という状態だった。今では集落としての体はまるで感じられず、現在は近くにおしゃれな家の現役牧場が1軒残るのみであるが、当時はもう少し人もいたのだろう。利尻富士を一番近くで独り占めしながら元気に毎日過ごす子どもたちの往時の姿を想像すると、うまく言葉では言えないがちょっと心に来るものがある。宗谷の教育・子育てに幻想を抱く筆者の勝手な想像無いはいえないだろうが、実際とても頑張っているというような評判を耳にした事もあるので、火の無い煙というわけでもないだろう。余談だが、私自身いつかこの目でそれを確認したいし、その上で仲間入りして自分も実践する機会があれば泣いて喜ぶ事だろう。



左の写真が夕来小中学校である。写真中央にあるのは朽ちかけた教員住宅。その左手側には庭が広がり、その向こうに校舎、さらに奥にグラウンドがあったらしい（国土地理院のS52年当時の航空写真より）。教員住宅だけ残っていたのは閉校後も住んでいた人がいた為だろうか。周囲に人の気配は無く、鳥のさえずりだけが聞こえた。外灯はあとからつけられたものらしく、避難場所にされているようだ（写真の左外には会館が建てられている）。

●そして、その後

大目的を果たした私は稚内市街で少々羽を伸ばし、また日本海側へ出て稚内温泉 童夢へ。600円という入浴料は少々高い気もするが、その分内装はきれいで温泉自体もよし、日本海を望める景色の良い露天風呂まであることを考えるとこれでいいのかもしれない。自分は好きで、ここに来るのは4度目になるはず。昨年末に行った時は激しい吹雪の中で暖かい湯に浸かって…なんてすごい贅沢な気分を味わってしまったし、おすすめである。温泉でずいぶんゆっくりしてしまい、時計は既に21時。明日は仕事。頑張っただけ帰路に着き、何とか日付が変わる前には自宅に帰り、またいつもの日常に戻りましたとさ。

…長い雑文にここまで付き合ってくれた方、大変感謝しております。現在私は道北を中心に廃校・廃線跡を訪ねて回っているのですが、もし気になる場所（自分の出身地など）があれば、今回のような形ででもお伝えしたいと思います。地域の象徴、または人と人の繋がり証であるこれらの事についてお話をするのも良いでしょうね。その際はご一報頂ければと思います。

筆者：本間 大

新連載PART3 ～大森さんからは可愛い家族のお話です。

愛犬 MIC の育児日誌 Vol.1

5月14日、ひょんなことから家族が増えることになった。家族でフラッとペットショップに寄って、「かわいいね～」なんて見ていたら子どもたちの買って買ってコール。妻も吸い込まれるようにながめていた。気がついたらすでに手にしていた。この日から子育てが始まった。

それでは、我が子を紹介しよう。

名前：MIC（ミック） 名前の由来：チワワとミニチュア・ダックスフンドのミックス犬なのでMICと名づけた。

性別：男の子 生年月日：2005年4月4日生まれ

5月16日、生後42日にして体重880g 1日3回の食事。快食快便。面白いことを発見、ウンチをするとき「クウ～ン・クウ～ン」と鳴いてからする。

5月26日、かなりやんちゃぶりを見せるようになってきた。マットの下にもぐったり、マットをひっくり返したり、サークルからだすと部屋中走り回って大変。

6月4日、早いもので生後2ヶ月になる。今日は1回目のワクチンを受けた。体重も1.3キロになり順調に大きくなっている。だいぶ落ち着いて遊べるようになってきたがやんちゃぶりも益々磨きがかかってきた。下の子が、ダメダメを連呼する場面が多くなってきた。

犬と一緒に暮らすということ、つまりそれは、異種のまったく違う文化を持つ生き物がともに暮らすということ。うまく共存するためには、それぞれの文化のギャップをうめていかななくてはなりません。ところが、そのギャップを理解しないまま暮らし始めてしまうと、私たち人間は、イライラし、怒鳴ったり、叩いてしまったりしがちです。

叱るより、ほめる。うまくできたら愛情を持ってほめまくる。そうすることによってきちんと理解してくれる。考えてみると、人間の子育ても同じように思える。感情的に叱ったり、失敗を責めるのではなく、ほめてほめて育てていく。それが、親子の信頼関係を作っていくのではないだろうか。

仔犬と接していて、あたりまえのことだが改めて考えさせられた。ほめる子育てを・・・。

次回につづく

次回例会のお知らせ

なかなか決まらなかった次回の例会ですが、7月21日（木）まこと保育所の行事、「園庭開放ピアガーデン」に参加します。時間は16:30～19:00ですので、仕事が終わりに次第急いで駆けつけてください。出店（焼き鳥、たこ焼き、枝豆、子どものお菓子）のお手伝いをしながら保育園の様子を見させていただきましょう。参加費は食券を事前に購入しますので、終了後徴収させていただきます。駐車場はないので、なるべく交通機関を利用してきてください。

尚、参加できる方は食券購入の都合上、電話またはメールにて亘会長または桑原まで連絡をお願いします。

★まこと保育所★ 札幌市白石区菊水8条3丁目3-18（札幌東高校の西隣です）



編集後記

今号から連載が3つに増えました。是非感想をお寄せください。

事務局 幌北中央保育園 札幌市北区北20条西3丁目19
☎ 011-716-1841 FAX 011-716-1852

発行責任者 桑原 一司